

平成12年度 和歌山県名匠

【紀州漆器木地師】

まつ の ひら よし はる
松 之 平 義 治

【現住所】和歌山市

【生 年】昭和3年

(号 松芳)

業績及び経歴

昭和3年海草郡美里町(現:紀美野町)で生まれる。同じく木地師であった父より挽物加工技術を修得し、28才で独立した。

当時、数十名いた木地師もプラスチック素材の導入等により年々減少していくなかで、祖父の代より引き継がれてきた技法を守りながら一貫して手挽きによる木製木地を製作してきた。

挽物加工は、「削り」と「乾燥」を何度も繰り返し、根気と集中力を必要とする作業である。

また、素材となる木材の選別に始まり、加工に使用する刃物も試行錯誤を繰り返しながら自ら作る必要があり、永年の経験と熟練の技が要求される。

木と対話しつつ、数種類の刃物を巧みに使い分けながら削り出される氏の作品は、ミリ単位以下の精度で仕上げられ、年月が経っても歪みが出ないため漆器業界から高い信頼と評価を得ている。

近年は、製作現場の第一人者として、和歌山県工業技術センターの研究開発に協力するとともに、木目を活かした木の温もりが感じられる花器の製作を手がけるなど、新製品の開発と販路の拡張にも取り組み、挽物加工技術の継承、発展に努めている。